

茅ヶ崎中央ロータリークラブの皆さま、ご無沙汰しております。私の留学期間もいよいよ終わりが近づいていますが、最終学期も慌ただしいながらも新しい学びを得る日々でした。

ここでは、前回の近況報告でご紹介した、キャップストーンという卒業プロジェクトについてご報告したいと思います。キャップストーンとは、もともとはピラミッドが完成した際に頂点に置かれた四角錐状の石のことで、それになぞらえて、「絶頂、極地」を意味します。私のいるプログラムでは修士論文の代わりに、最終学期に1月後半から卒業の5月まで通常の授業の傍ら、このキャップストーンと呼ばれる2年間の修士課程の学びを実践に活かすためのプロジェクトに参加します。それぞれのプロジェクトにはクライアントと呼ばれるプロジェクトの依頼者がおりクライアントの多くは専攻分野で活動している組織や団体です。

このキャップストーンは修士課程の集大成であり、今後のキャリアにも繋がることもあるため、今年度ほどのいったプロジェクトが実施されるのか、自分がどのプロジェクトに配属されるかは学生の中では大きな関心事です。前学期の時点で卒業プロジェクトの概要が発表され、学生は自分の関心あるプロジェクトに応募し、大学院による選考が行われます。この選考は大学院内の選考ではありますが、希望するプロジェクトを第5希望までリストアップし、履歴書、志望動機を提出して大学院が個人の興味とスキルのマッチングをするという、さながら実際の就職活動のような手順を踏みます。私も多くのプロジェクト概要を読み込み、競争率なども考えながら、慎重に希望するプロジェクトを選びました。その結果、第一希望だった「中東地域における難民の若者を社会変革に取り込むためのプロジェクトに参画してもらうためにはどのようなプログラムが有効か」を調査するプロジェクトに参画することになりました。このプロジェクトのクライアントは、人道支援で有名なアメリカの非営利団体(Non-Governmental Organization, NGO)であるマーシーコープス(Mercy Corps)です。

このプロジェクトはシリア、ヨルダン、レバノン、ギリシャの4か国を対象とし、文献調査と実地調査、データ分析を通して、これらの国に住む難民の若者が NGO のプログラムに参加するにあたって直面している困難と、どうすれば参加を促進することができるかを明らかにすることが目的でした。チームメンバーはそれぞれ異なる経験とバックグラウンドを持った8人の学生です。中東地域での勤務経験があったり、国連で難民援助の仕事をしていたり、母国で難民受け入れの業務をしていたなど、メンバーは経験も知識も豊かです。その中で、英語もまだまだ完璧には話せない私は奮闘することになりました。私はもう一人のチームメイトと共にヨルダン担当となり、ヨルダンの政治社会的状況、難民の置かれた状況などを調査し、他のチームに共有するとともに、現地調査の準備を進めました。

現地調査では、首都アンマンだけでなく、難民キャンプや郊外の都市を訪れる機会もありました。難民キャンプで暮らす若者や、難民の心のケア、教育、職業訓練などの分野で活動する NGO 職員に話を聞き、シリア難民をはじめとした人々の直面する厳しい現状に心を痛めるとともに、今後も難民・国内避難民支援に関わっていきたいと益々想いを強くしました。チームの作成した報告書と、オンラインで開催した報告会はクライアント、現地で活動する方々から好評で、来年も是非コロンビア大学の学生と共同プロジェクトを実施したいとのフィードバックを受けました。ご関心のある方はリンクから発表資料をダウンロードいただけます。
(<https://goo.gl/kxmpQe>)

当初は経験豊富なメンバーの中で、中東地域の専門的な知識も、アラビア語力も、難民と直接触れ合った経験もない私がこのプロジェクトにどう貢献できるのかと心配でしたが、皆それぞれ強みがあり、私もこれまでの経験を活かして貢献することができるということが分かったのは収穫でした。私はやはり英語のレポート作成力、プレゼンテーション能力ではアメリカ人の同級生にはかないませんが、フィールド調査の経験があるメンバーは少なかったため、研究のデザインやインタビューの質問作成では議論をリードしたり、アイデアを出すことができました。また、前職でのプロジェクトマネジメントの経験を活かして、スケジュールを作成したり、チームを結束させるためのワークショップを企画したりと、異なる仕事の進め方やコミュニケーションのスタイルを乗り越えて、チームをまとめてより良い成果を出すために工夫しました。

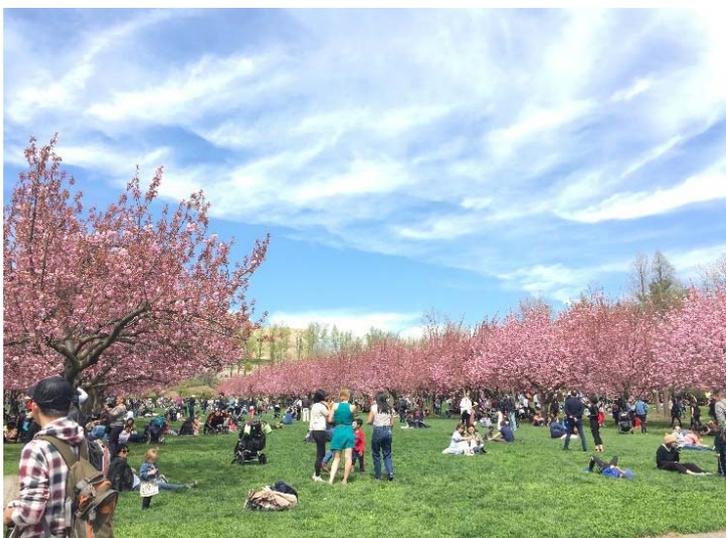
学びの多かった私の留学期間も修了が近づいています。ロータリークラブの皆さまのサポートのおかげで、このような素晴らしい学びと成長の機会がいただけたこと、改めて心から感謝する日々です。



アズラック難民キャンプでのワークショップ参加者と



ヨルダンのワディ・ラム遺跡



お花見シーズンのニューヨーク



発表準備中のキャプストーンチーム